

ある小学生の家族からのメール

一般財団法人いも類振興会 顧問

かりや 狩谷
あきお 昭男

2017年2月22日に突然、森田雄一さんから次の嬉しいメールをいただいた。

「岩手県の森田結子という小学生の家族です。本日は、ジャガイモ事典(2012年)に、感謝をお伝えしたくメールいたします。

森田結子は、春先に産地が九州とま逆の北海道のジャガイモが店頭に並んでいたことに疑問を抱きました。そこで近くの種苗店をまわって、29品種の種イモを植え、品種によって味が違うのか、どんな調理をしているのか、世界中に広まって栽培されていること、かつての日本ではどうだったのか、岩手県の先人、石川啄木・金田一京助・野村胡堂の記録から当時の様子を偲んだりしてまとめました。良き参考書に巡り会ったお陰様でジャガイモを幅広く知ることができ、図書館振興財団の調べる学習コンクールに入賞し、2月28日に上京し表彰を受けます。

良き参考書とはジャガイモ事典のことであり、ここでお伝えしたいことは、1、児童書で調べたものの、はっきりしないことも多く、最後の頼みの綱はジャガイモ事典を購入して確かめたこと。2、この事典はさすがに品種から伝播、歴史などのジャガイモ研究者様により総合的に網羅していること。さらには、3、ジャガイモは栄養に富み、飢饉に人類を救ったスーパーヒー

ローととらえ、我が家の食材の中心として多様な料理を楽しむに至ったことなどです。4、また、昨年夏、主産地の北海道が水害に見舞われたことにお見舞いの言葉を発し、社会のニュースに関心を示すようになりました。」

ジャガイモ事典の企画編集に当たった筆者は、事典の冒頭で「本事典刊行の目的は、ジャガイモに直接関わりのある生産者、流通・加工業者、研究・指導者にジャガイモに対する関心と理解を促進するほか、広く消費者、学生等にとってもジャガイモの入門書的な役割を果たすことにある。」と記した。その意味からも、本事典を有効に活用していただいている森田さんのご家族をはじめ、全国の読者の皆様に感謝申し上げたい。周知のとおり、ジャガイモ事典は地味な本である。今回、森田さんからメールをいただき、改めて事典の企画編集に傾注していた当時を振り返り、深い喜びを感じている。

幼少期において、ジャガイモやサツマイモの栽培を直接経験し収穫物を味わい楽しんだ貴重な体験は、子供たちにとって正に“宝もの”と言えよう。それらの原体験は今後、未来への生命を繋ぐ食べ物の架け橋的な役割を担う者として、活かされていくに違いない。その期待を、未来に生きる子供たちに託したい。